

令和7年度 学校自己評価計画の最終報告書

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度 判断基準	集計結果(内は前期)	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	① ICTの効果的な活用とともに、研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動を取り入れた授業を実施する。	教務課	「効果的なICTの活用など工夫された授業が行われている」の項目においてA評価が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	生徒による授業評価アンケートで 54.2% (52.3%) →評価【C】(C)	授業において、生徒がChromebookを活用する場面は、視覚的に分かりやすい教材提示や教材配布時間の短縮などの点で効果を上げており、確実に増加している。Chromebookの利用はすでに定着しており、来年度はさらに効果的な活用を目指して、教員間での情報交換をより一層活発にしていきたい。
			「授業を通じて学力がついてきている」という肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	生徒による授業評価アンケートで 86.7% (86.0%) →評価【A】(A)	各教科において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組んでいる。今後もこの取り組みをさらに発展させるとともに、知識を関連付けて深く思考させたり、解決策を考えさせたりする探究的な学習活動を取り入れた授業を展開し、確かな学力の育成を図っていきたい。
	② 「総合的な探究の時間(西高プロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的・協働的に学び活動する態度を養う。	探究課	生徒アンケートで「主体的・探究的・協働的に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	年度末の振り返りの時間にアンケートで 1年 97.1% →評価【A】 2年 98.8% →評価【A】	1年生は、地域・外部機関との連携を拡充し、実社会と結び付いた課題設定を推進したこと、2年生は自ら課題を設定し、探究サイクル(問いの設定・調査・分析・まとめ・発表)の過程を経験できたことや活動内容が生徒の興味と合致し、主体的な参加が自然に促されたことが効果的に機能している。来年度は、探究サイクルを一層体系化し、段階的な指導の充実を図る。
	③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現に向けた学習時間の確保を促す。	教務課	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が A 60%以上 B 40%以上 C 20%以上 D 20%未満	家庭学習時間量調査で 1年 53.6%【B】 2年 24.7%【C】 3年 35.0%【C】 全体 37.8%【C】	家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合は、昨年度と比較すると、1年生では減少した一方で、3年生では増加した。次年度は、生徒一人一人が進路目標を明確にできるよう支援し、内発的な動機付けを高めることで、家庭学習のさらなる充実を図りたい。また、生徒が自発的に学習に取り組み、探究的な学びを深められるよう、課題の在り方や提示の方法についても工夫していきたい。
	④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し、方策を検討することで、学力向上に結び付ける。	進路指導課 1・2 学年	1, 2年1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 40%以上 B 35%以上 C 30%以上 D 30%未満 ※1・2年別に達成を判断する	当該模試の結果で 1年 27.7% →評価【D】 2年 31.9% →評価【C】	1年生の結果は1月【D】である。 3教科の中では、国語が偏差値50.6と健闘している。数学英語においては偏差値50以下であり、課題が多い。進路目標の設定と併せて、学習に取り組ませる姿勢を熟成させていきたい。 2年生の結果は1月【C】である。 ここ数年の中では上位層が多く、今後は中位層の底上げが必要となってくる。共通テスト模試の結果と併せて、今後の指導の指針としていきたい。
	進路指導課 3学年	10月の校外記述模試平均偏差値(文系国数英・理系数英理)50以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 30%以上 B 25%以上 C 15%以上 D 15%未満 11月の共通テスト模試総合偏差値(文系6-9型、理系6-8型)52以上の生徒の受験者全体に対する割合が A 25%以上 B 20%以上 C 15%以上 D 15%未満	3年10月の校外記述模試平均偏差値50以上の生徒47名(22+25) 24.2% →評価【C】 3年11月の共通テスト模試総合偏差値52以上の生徒34名(25+9) 12.8% →評価【D】	3年生の結果は10月記述【C】11月共テ模試【D】である。 人数的には昨年度並みである。昨年度から「情報」も加わり、教科数が増えたことや試験時間の延長による問題量の増大の影響から、全9科目及び8科目をそろえることが難しくなっている。この指標では見えにくい、全科目ではなく、科目を一部に絞り、突出した結果を出している生徒もいる。入試方法は年々変化しており、全ての科目ではなく、個々の志望に併せた進路指導が必要となっている。個々の成績にフォーカスしながら進路指導を進めていきたい。一方で各科目においても、分野別の分析などを徹底し、全体の底上げをしていく必要があると考えられる。	
	⑤ 進路学習を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。	進路指導課	①難関国立大学、金沢大学に10名以上合格 ②北信越地区の国立大学に40名以上合格 ③北信越地区の国公立大学に合計90名以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	年度末の実績で ①難関国立大学1名、金沢大学12名、②北信越地区国立大学64名、③北信越地区国公立大学123名 →評価【A】	国公立大学の入試において、生徒は総合型選抜、学校推薦型選抜の準備を2年生から行い、後期日程まで進路目標を見失うことなく多数が受験をした。このことで後期日程からも多くの合格者数が出たことにより、3項目を達成することができた。次年度は今年度の取り組みを活かしつつ、様々な状況の変化、各大学の個別変更に対応できるように準備し、生徒の進路実現につなげたい。
2	① 挨拶運動を通して生徒会執行部と協力し合い、学校全体の活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を養う。	生徒課	生徒アンケートから、「積極的に挨拶を行った」が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	年度末の実績で 82.6% →評価【D】	自ら進んで挨拶できる生徒が昨年より2.4%減っている。挨拶を通じたコミュニケーションの意識が近年薄れてきているように感じる。挨拶が他者との関係性を構築するための大切な行為であることを生徒たちに意識させたい。
	② 様々な交通安全指導から、自転車乗車マナーの向上を意識し、交通社会の一員としてルールの遵守、安全への配慮等、事故防止に向けた注意力、判断力を身に付けさせる。	生徒課	自転車乗車違反件数が、年度末累計で、 A 10件未満 B 20件以下 C 30件以下 D 31件以上	石川県警察本部交通違反指導状況データより 4-12月集計118件 →評価【D】	12月末時点で118件と昨年より30件少ない件数であった。来年度から道路交通法の改正により、自転車の罰則金が施行されるので、金沢西警察署と連携して交通安全やルール遵守の規範意識の向上心を高め、交通社会の一員として更なる自覚を強く促す指導が必要である。

		③	いじめは絶対に許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。また、未然防止に取り組みながら、居心地の良い学校づくりに努めていく。	生徒課	「互いを尊重できる居心地の良い学校であるか」のアンケートから、肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	生徒による学校評価アンケートで 93.1% (91.0%) →評価【B】(B)	今年度はいじめ案件が1件あり引き続き対応している。引き続きいじめ認知のアンテナを高くし、いじめは許されないという意識を強く持たせていきたい。
		④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	歯科の受診率が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	年度末の実績で 85.5% →評価【A】	担任および学年主任の協力を得て、受診が必要な生徒への声かけや、保護者懇談時における受診勧告書の配布などの取り組みを継続して実施した。保健室では個別の保健指導を行い、その結果、受診率の改善が見られた。次年度は、健康観察の入力率向上に取り組むたい。
3	文武両道の実践のもと、部活動の効率的な活動と更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部の活動環境の支援及び改善を図りながら活動内容を充実させる。	生徒課	「充実感や達成感を感じられる部活動が行えているか」の肯定的評価が A 85%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒による学校評価アンケートで 90.6% (94.0%) →評価【A】(A)	部活動での充実感や達成感が得られたという数値が90%を超えているが、能動的に個々が活動しているかは疑問に感じることがある。ただ試合に勝つというだけでなく人間形成の場として部活動を充実したものにできるよう取り組みたい。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につながる。	生徒課	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 30枚以上 B 20枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	(運動部) 県高校総体総合成績 総合21位 →評価【C】 (文化部) 年間の獲得賞状枚数 26枚 →評価【B】	運動部の県高校総体総合成績は21位と昨年より順位を2つ落とす結果となった。次年度は順位を一つでも上げるよう環境整備を行ってきたい。 文化部の表彰枚数が昨年の21枚から26枚という結果であった。この成果は、部員一人ひとりが着実に実力を蓄えた結果である。今後、生徒に対してよりきめ細やかな支援や指導を行うことで、さらなる入賞者の増加を目指す。
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	「学校の情報提供は十分に行われている」という保護者が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数が A 1000名以上 B 800名以上 C 600名以上 D 600名未満	保護者による学校評価アンケートで 肯定的評価88.9% (87.0%) →評価【B】(B) 年度末の実績で評価 2,551名(R6年度:979名) →評価【A】	教育活動の内容をHP、学年通信、メール配信等によりこまめに情報提供した結果、高い評価になっている。来年度は、より多くの保護者に年度当初にメールの設定をしてもらえるようにしたい。 PTA総会や3年進学講演会などに多くの保護者が来校された。特に西高祭では保護者・卒業生のみ入場可能にも関わらず、約1,400名が来校された。
		②	主体的な学習の基盤となる豊かな知識と思考力・判断力を身につけるため、各分掌や学年、教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末までで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	4月～1月集計 0.9冊 (R6年度:1.7冊) →評価【D】	昨年度と比べて貸出冊数が半減している。読書離れが進んでいるのが現状である。昼休みや放課後の図書館利用も少なく、授業での図書館利用も少ない。クロムブックやパソコンなどネットを活用した学習が増えていて、紙の本の利用が減っている。次年度はデジタルデトックスや気分転換で読書をすすめるような啓発活動を図書館や図書委員会で発信していき、読書する習慣を身につけてもらえるように取り組んでいきたい。
		③	学年・委員会・部活動による地域貢献や学校行事のサポートを行い、ボランティアへの関心を高める。	生徒課	ボランティア活動に参加した学年・委員・部活動の人数が A 150人以上 B 100人以上 C 50人以上 D 50人未満	吹奏楽部 24名 図書委員会 5名 金沢マラソン 130名 →評価【A】	ボランティア活動の周知に当たっては、部活動やボランティア委員会といった団体単位の参加だけでなく、個人単位での参加も促すため、Googleフォームを活用して募集を行った。今後もわらべ保育園への読み聞かせや音楽会、金沢マラソンなど地域社会への貢献やボランティア活動への関心を高めていきたい。
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、業務の平準化と見直し・精査・改善を通じ教職員の時間外勤務縮減を推進し、ワークライフバランスを意識した業務改善につながる学校マネジメントを推進していく。	①	定時退庁日等の設定や会議の効率化を図り、タイムマネジメントの意識を高める。また、ワークライフバランスを常に意識し、具体的な取組を実践する。	教頭	具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	教職員へのアンケートおよび勤務時間調査で 67.3% (67.3%) →評価【B】(B)	全国的、全職种的に徐々に浸透していている多忙化改善において教職員自身が多忙化を改善しようという心がけを行い、自ら勤務時間を適切に管理したことにより少しずつであるが前進している。定期試験期間では、生徒の下校時間を早めに設定した。部活動では、積極的に外部指導員を登用することで教職員の業務負担を軽減し、教職員の時間の融通を図った。その結果、教職員に時間的なゆとりが生まれ、有給休暇の取得率向上へとつながった。また、試験採点への自動採点システムの活用を推進したことにより、採点業務の時間が大幅に削減された。更なる策を講じたい。